

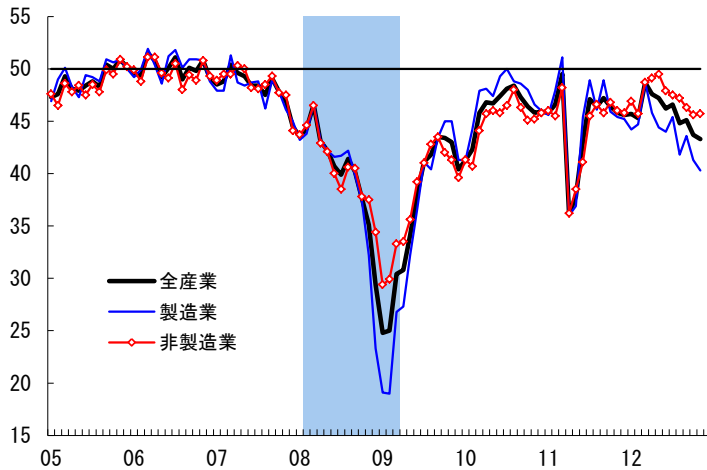
指標名：中小企業の業況(2012年11月)

発表日2012年11月27日(火)

～外需の弱さやエコカー補助金終了等で引き続き低下～

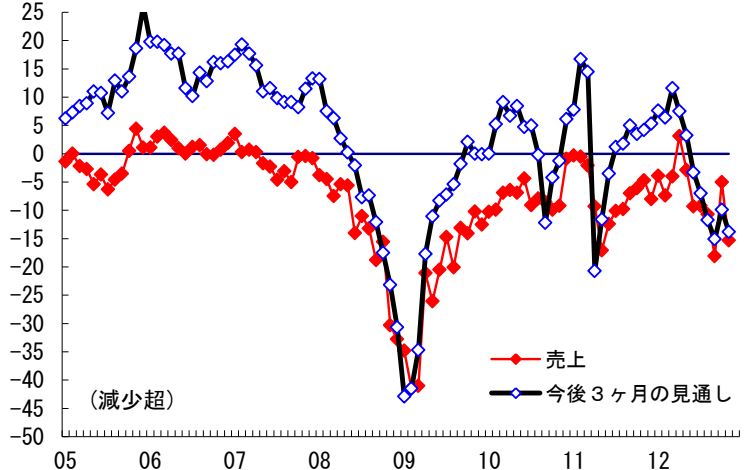
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

景況判断指数 (中小企業月次景況観測)



(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」

(増加超) 中小企業 売上げDI (季調値)



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」

(注) DI=(増加-減少)企業割合

○景況判断指数：外需の弱さとエコカー補助金の終了の影響などで引き続き低下

商工中金から公表された11月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：11月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で43.3(10月：43.7)と2ヶ月連続で低下した。景況判断指数は3月をピークに低下傾向で推移している。業種別にみると、製造業は引き続き低下傾向、非製造業も単月では小幅に上昇したものの6月以降は軟調に推移しており、中小企業の景況感の悪化が鮮明となっている。海外(特に中国)からの需要が依然として弱いことに加え、エコカー補助金終了後の自動車販売の減少などが景況感を下押ししているものとみられる。

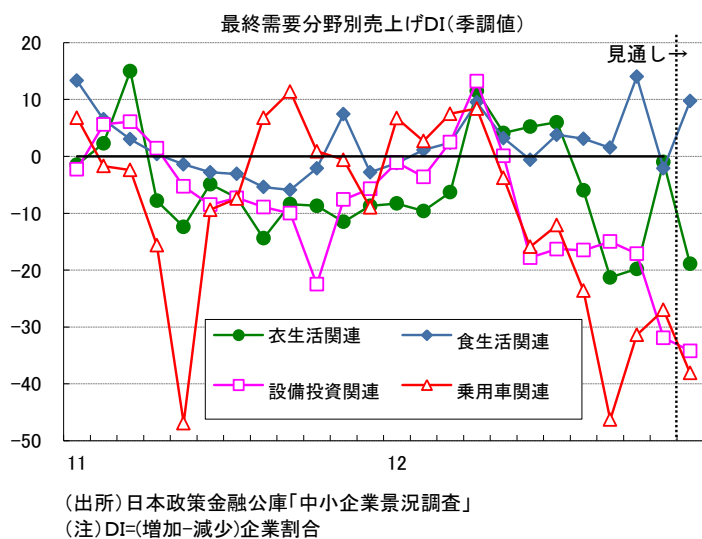
日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：11月中旬)の売上げDI(季節調整値)は、前月は比較的大きく上昇したものの、今月は▲15.3(10月：▲5.0)と大幅に低下した。最終需要分野別にみると、乗用車関連がエコカー補助金の終了等で引き続き低調に推移していることに加え、外需の弱さや国内景気の弱含み等を受けて設備投資関連も大幅に低下した。売上げDI(季節調整値)はこのところ振れの激しい推移となっているが、総じて低調な推移が続いていると言えよう。

懸念される日中関係の悪化については、どちらの調査においても、前月は悪影響があったという声はほとんど聞かれなかったようだが、今月は自動車関連などで売上げの減少や税関での手続きの遅延など一部悪影響を指摘する声があったとのことだ。

○中小企業の景況感は当面低調に推移する見込み

12月の景況判断指数は製造業は40.8(11月実績：40.3)、非製造業は46.6(11月実績：45.7)とともに上昇が見込まれているが、依然水準は低い。中小企業の景況感の回復には輸出と自動車販売の持ち直しを待つ必要がある。両者が明確に持ち直すのは年明け以降となると予想されるため、当面中小企業の景況感も低調に推移するものとみられる。また、引き続き日中関係の悪化には注意が必要だ。中国経済には足元持ち

直しの兆しが窺えるものの、事態が深刻化・長期化すれば中国経済回復の恩恵を日本企業だけ受けられない可能性が考えられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。